

心を磨く

「心がつながる福祉の仕事」

八頭町社会福祉協議会 地域福祉課 藤田 亮二 さん

全校道徳②6月7日（火）2・3限



第2回目の全校道徳は、八頭町のコミュニティソーシャルワーカーとして働いておられる藤田亮二さんに話をさせていただきました。福祉の仕事とはどのようなことか、また、どんな心構えで仕事に向き合っておられるのか、現場の様子を交えながら、わかりやすく話してくださいました。そして最後に話された、八頭町の中学生への次のようなメッセージがとても印象的でした。

**福祉の仕事は心がつながる仕事、その人の人生にかかわる仕事です。
重い仕事ではありませんが、やりがいがあり心が豊かになる仕事です。
こんな福祉の仕事に興味をもってくれたらとてもうれしいです。
皆さんも地域の一員として地域の福祉について考えてみてください。
そして自分の住んでいる所を大切にしてください。**

福祉とは

相手の幸せに思いをはせること



～生徒感想より～

★福祉の仕事は「全部をやらない、その人のできないところを支える」という言葉が心に残りました。だれにでも自分なりの生き方がある。僕も、人の生き方を支えていける人になりたいです。全てに手を出して、その人の「できる」楽しみを奪ってはいけません。熊本の話にも驚きました。地震があったとき、あるお年寄りの方が、「あの熊本の子は大丈夫かなあ。」と以前出会った熊本出身の学生のことを気遣っておられたそうです。人と人とのつながりが、震災や事故、事件を乗り越える力になるのだと思います。

(1年男子)

★私は今日のお話で、ボランティアで介護施設に行ったことを思い出しました。施設で働く方たちを見ていると、お年寄りに合わせてお話をし、その人に合った対処をしておられました。心を通わすことで人と人がつながり、支え合っておられる様子を見て、福祉の仕事に対してもっと興味がわいてきました。私が住んでいる地域の人たちは、田んぼの手伝いをし合ったり、家でできた果物を分け合ったりしています。こういった行動が、これからも続いてほしいと思います。

(1年女子)

★「福祉」が、自分のイメージしていたことと違って、「幸せ」を表す言葉であることに驚きました。職場体験で「すこやか」に行き、介護の仕事はとても大変だというイメージが強かったのですが、その中で相手をどれだけ幸せにできるのかを考えておられることが改めてわかりました。マニュアル通りにすればよいというのではなく、相手と向き合い一人ひとりの方についてしっかりと考えることも、福祉の仕事の大切なことだと言っておられました。相手の心に触れることで、どうすればその人がもっと良くなるかが分かってくるのだと思います。

(2年男子)

★藤田さんのお話を聞いて、職場体験学習を思い出しました。私は「すこやか」に行きましたが、「高齢者の方々は何にもできないからそこにいるのではないのです。」という藤田さんの言葉にとっても共感しました。「福祉とは相手の幸せに思いをはせること」だとも言っておられて、そのために相手の気持ちを考えたり意識したりしながら接することが大切なのだと知りました。私は、これからの生活の中で、「福祉の心」をクラス、班活動で生かし、助け合い協力し合っていきたいと思います。

(2年女子)

★「福祉」の意味を聞かれたとき、最初は、漠然と「奉仕活動」のようなことしか浮かびませんでした。しかし、「お世話をするのはではなく、お手伝いをする。なぜなら一人ひとりが自分自身の人生を歩んでいるのだから。」というお話に、なるほどと思いました。お年寄りの方は、一人の人間として誇りをもって自分の人生を生きている。しかし、どうしてもできないことがある。それをお手伝いすることで、誇りを守り寄り添い関わることでできます。人と人がつながって、みんなが幸せになるのが福祉だと思います。学校生活の中でも、人との関わりを考えながら、生活していきたいです。

(3年男子)

★地域のために働く福祉の仕事は、高齢者や体の不自由な人に寄り添って「お世話する」のではなくて「手伝う」ことであるとわかりました。藤田さんの話を聞いて、人に寄り添ってお互いに助け合いながら生活できる力のことを「福祉の心」というんだと思いました。普段の生活の中で、学校に行くときに地域の方に会います。その時にあいさつをすると「いい天気だね」とか「今日もがんばってね」と話しかけてくれます。私も笑顔で返すと、相手も笑顔になります。地域に笑顔が広がることによって、「福祉の心」は広がっていくのだと思います。

(3年女子)

